

シャガ（射干） アヤメ科アヤメ属の多年草

作：岡田 弘

私たちは名前のシャガだからシャガんで良く観るんだよ、なんて言っていますが、なぜ？シャガなんて想像も出来ない不思議な名前がついたのかと思いませんか、そこで名前が付けられた由来を調べてみました①ヒ

オウギの根茎を「射干（やかん）」と呼ばれていた頃、同じアヤメ科で花の姿も似ているシャガがヒオウギに間違えられて「しゃかん」と名付けら

れたのが呼びやすく変化して「しゃが」になったと言う説。②葉が「ヒオウギ」に似ていることから、ヒオウギの中国名である「射干（しゃかん）」を音読みしたことから由来する説、があります。

日本の「アイリス」といわれ原種名の名前の最後に「ジャポニカ」とあり原産地が日本であると思われませんが古い時代に中国から渡来した帰化植物ではないかと言われています。

当初「胡蝶花（こちょうはな）」と名付けられたが定着せずいつの間にか「射干（しゃが）」の名前が定着してしまった。

「シャガ」は北海道～九州まで日本全国に分布している、DNAが3倍体であるので種子が出来ないのでなぜ？

*そこで**3倍体**について少し触れておきます、（私自身詳しく判りません）

3倍体だとなぜ？種子が出来ないか？3倍体は $3 \div 2 = 1.5$ つまり奇数になるのできれいに整数にならないから「減数分裂」が起こらないので種子が出来ない。

*母から半分（1）の染色体、父から半分（1）の染色体をもらって（それぞれ2倍体が半分の1になるのを「減数分裂」と言う） $1 + 1 = 2$ もとの2倍体となるので子孫（種子）が出来ます。と言うことです。について

種子が出来ないのに何故日本全国に分布したのでしょうか？人が住んでいないような深い山の中の谷間にも自生しています。古い時代この山奥に人が住んでいたのだろうか？と古の昔を創造してみるのもロマンがあつて良いかも、気の遠くなるような時間の中で1年に数十センチずつ地下茎を伸ばしながら全国に広がった？仮に、1年で50cm地下茎を伸ばすとすると九州から北海道までの距離約3000キロを計算すると600万年かかる事になります。植物4億年の歴史の中では大したことないか！！

と言うことで、「シャガ」の不思議な生命力を考えて観られると見る目が違い又一段と美しく見えるのではないのでしょうか？

やや湿った半日陰を好み、5～6月に開花します、花は1日花で翌日はしおれてしまいます。

*花言葉＝反抗・友達が多い・私を認めて



